

2025.12.25

「福島フィールドワーク」(2025年11月24日(月)～11月26日(水))に参加した生徒の感想を紹介します。
在校生へのメッセージとして、ぜひお読みください。

私は福島 FW に参加するのが2回目でした。昨年参加したときに最も印象的だったのは、福島第一原発一号機の姿でした。ぼろぼろの骨組みを見て初めて、こんなに大きな建物が本当に爆発したんだな、と実感しました。教科書に載っている精々4cm 四方の画像では到底感じることのできない衝撃を受けました。そんな一号機は、今年見学した際、見える部分が工事現場のようなパネルで覆われていました。1年経てば作業が進むのは当たり前で、それが廃炉への正しい道のりだと思います。ですが、今の一号機から昨年感じたような大きな感情は湧きあがりませんでした。そのようなことは、これから徐々に増えていくと思います。震災遺構として残されるものもありますが、そうではない廃墟は復興の過程で解体されます。もちろん、段々と復興が進んでいっている状況から学べることも沢山ありますが、去年私が感じたような感情は抱かなくなるかもしれません。そう考えると、震災や原発事故の被害のおぞましさについて、これはまだまだ終わっていない災害なのだということについて、福島に行って実感を伴って学ぶことができるタイムリミットは、あと数年なのではないかと思います。今だから学べることがあります。是非来年参加してみてくださいね。

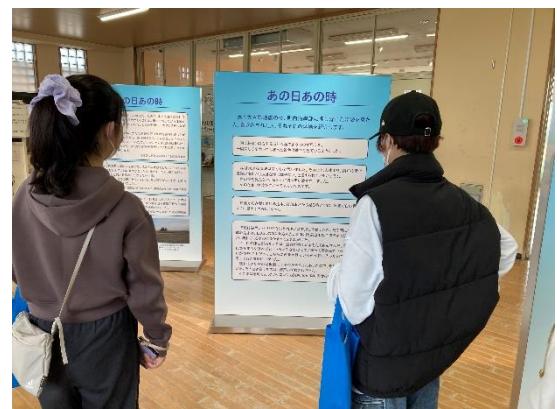


今回のフィールドワークを通して全体の感想としては「無知を思い知らされた」です。事前学習を通して放射線について、当時の人々の様子、東電の軌跡を学んでいたはずだったのに、現地で様々な方のお話を聞き、実際に自分で現地を歩くことでどんどん新たな発見があり、自分はまだ表面からしか学べていなかったのだと感じました。私は震災から 10 年以上経った福島の現状を知りたい、原発を視察してみたいという動機で今回のフィールドワークへの参加を決意しました。三日間みっちりと学ぶことで、福島のことを自分ごととして捉えられるようになっていきました。今回参加をしていなければただニュースに踊らされてしまう人になってしまっていたかもしれないと思うと、得たものの大きさを改めて実感し、今度は私が伝えたいなと思います。福島の皆さんから頂いた言葉、受けた熱意を自分の中で終結するのではなく、これからも語り継ぐ意義を学んだ自分から発信していけたらと思いました。三日間あつという間に終わってしまいましたが、先輩との仲も深まり楽しい学びの時間を過ごすことができました。

私は、実際に原子炉を見学して自分が何を感じるのか、当時の人々の感情、また事故から時間が経った今の記憶の伝えられ方、今回参加したような体験学習のあり方に興味があって、参加を決めました。申し込んだ時は、科学の話ばかりだったらどうしようかと思っていましたが、いろんな方のお話を聞いたり、ディスカッションをしたりする時間がたくさんあって、自分のもともとあった疑問を考えることができました。また、知識では知っていても来ないとわからないことがある、というのは、その通りだと思いました。迷ったら、参加するべきだし、迷ってなくてもほんの少しでも興味があったらまず調べてみて、参加してみるといいと思います！

まず自分はあまりにも無知だと思いました。事前学習をしたのに、知らないことと衝撃を受けることばかりで、本当に刺激的な2泊3日でした。是非多くのお茶高生に参加してみて欲しいです。私は、事前学習をしているうちに知りたいことが増えてきて、福島 FW に来ると更に知りたいことが増えてきました。また、一緒に来ている仲間と話し合いをして、また新しいことに気づくことができました。この FW では原発事故に関することや現状、復興のこと以外にも、再生可能エネルギーの技術、自分の未熟さや仲間のすごさを感じることができます！

人間として成長する大きな機会になったと思います。冗談抜きで人生変わりました。





福島 FW に参加して実感したのは、福島の原発事故がもたらしたものについて自分達がいかに無知だったかということです。事前学習で得たのはあくまで当時の知識で、「当時こうだった」と考えていたことがまだなお解決できない問題として横たわっていることが衝撃でした。語り部の方が「岩手や宮城との違いは、建物や街は残っているのに人がいないこと、繋がりがなくなってしまうこと」と仰っていましたが、経年劣化と動物が荒らした後が残る家屋や商店、全部水田だったという一面ススキの景色、朽ちたガソリンスタンドの看板など、人がいなくなった地域はこうなってしまうというのが衝撃でした。行かないと見ないと分からない空気感でした。

福島 FW に行ってみて本当に良かったと思っている。自分の知らないことが多すぎて、全てが新しく重いものだったと思う。片付いたと思っていた福島には、戻って来れない人たちがいて、帰って来ないと決まった家が経年劣化で錆びていく街並みがあった。校舎には黒板の寄せ書きが残っていて、戻っていないことを実感した。しかし、そのような状況でも出来ることを考え続けて、前に向かっていく人達がいることも感じることができた。また、福島の状況を様々な面から見ることで、自分の関心や軸を置く部分がはっきりと掴めたと思う。誇張抜きで、全てが糧になったと思う。

実際に行くことで知ったこと、行かなければ知り得なかったことを多く得られた。人のいない街というのを間近にみた。駅周辺なのに車も人もおらず、堀だけ残った空き地、薙の絡まった家、解体作業中の家、のびきったすすきの田んぼ。全てが違和感で、なんともいえない物悲しさがあった。一方で原子力発電所の中はそれよりもずっと街のようだった。街を作る上で、人はとても大事なのだと感じさせられた。また、私は福島に行って原発は必ずしも無くすべきものではないのではないかと考えようになった。負の面だけではなく、必要があるからこそ今もあるということを感じた。災害、防災、エネルギーについて今もなお続く問題を過去、当時、現在、そして未来を様々な視点から見る、有意義な学習だった。



福島フィールドワークに参加して、今まで知らなかつた「生」にたくさん触れ、衝撃を受けました。原発の事故による被害が、地震や津波による被害とどう異なるのか、それによって現代にどのような問題が続いているのかということを実際に現地に行って実感しました。まだまだ被害は終わっていないし、決まっていないことがたくさんある中で、なぜこのような大きな事故が起きたのか、事故原因の分析を学び、振り替える勇気が必要だと知りました。自分の生活にも当てはまる事がたくさんあったので、この経験を生活に活かし、この福島第一原発の事故についてこれからも考え続けて行きたいと思います。また、一緒にいたった仲間と活発に様々な意見交換が出来たことも大きな学びになりました。このような貴重なプログラムに参加できてとてもよかったです。ありがとうございました。

今まで 3.11 の震災や原発事故の話題に触れる機会はあったが、実際に現地に行くことで福島のありのままの現状を知ることができ、福島やエネルギー問題について積極的に考える良い機会になった。書籍やテレビだけではインプットするだけだが、ディスカッションもあり、アウトプットもすることで自分の考えを持つことができた。特に原発をどうしていくのかやエネルギー問題は、電気を消費している私たち一人ひとりが自分事として捉えなくてはならない問題だと感じた。また最初はあまり興味がなかったが、水素や再生可能エネルギーの研究についても学び、水素と再生可能エネルギーの関係や発電の工夫を知って、非常に面白いと感じ興味を持った。

3日間のスケジュール

- 1日目 双葉町・東日本大震災・原子力災害伝承館、双葉町・浪江町フィールド学習(JR 双葉駅周辺、請戸小学校、請戸漁港、大平山靈園、道の駅なみえ)、福島水素エネルギー研究フィールド、双葉町産業交流センター 【対話】富岡町 3.11 を語る会、振り返り学習
- 2日目 富岡町・東京電力廃炉資料館、東京電力福島第一原子力発電所構内見学、富岡町・復興メガソーラーSAKURA、link る大熊 【対話】東京電力社員、えこねる南相馬研究機構、振り返り学習
- 3日目 郡山市・産総研福島再生可能エネルギー研究所 まとめのワークショップ